

平成 29 年度 事業 報告 書

はじめに

食品の安全や品質、健康への関心が引き続き高い中、乳用牛頭数や担い手の減少が続き、生産基盤強化が酪農乳業界の喫緊の課題とされ、酪農の体質強化、経営安定のための対策とともに、乳製品の輸出の促進や新商品開発のための技術開発の支援等時代の変化に応じた経営を展開できる環境整備が進められています。このような環境の中で乳・乳製品の安定供給に取り組まれる酪農乳業関係者のご要望に的確にお応えできるように、乳・乳製品の試験検査機関としての長い経験と実績を活かして、平成29年3月21日開催の第13回理事会で承認された事業計画に沿って、事業を実施しました。

食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC 17025 認定試験所として、引き続き、FAPAS、ICAR等国内外の精度管理調査等に参加するとともに、標準作業書等の計画的な改善等を進め、信頼性の向上に努めました。

信頼性やサービスの低下につながることをないように十分に配慮しつつ、引き続き業務の合理化、効率化等による経費の節約を徹底するとともに、試験検査機器の更新・導入を計画的に実施して、精度の高い試験検査の実施環境の維持・向上を図りました。

各事業の概要は、以下のとおりです。

〔公益目的事業〕

1 法令に基づく検査・認定

(1) 食品衛生法に基づく試験検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、輸入乳製品の食品衛生関連法令に基づく試験検査を実施しました。

- ・輸入乳製品の自主検査(脱脂粉乳、バター、ホエイパウダー等)
166検体 (28年度 122、27年度 115、26年度 151)

(2) HACCP支援法に関する認定

「食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法(HACCP支援法)」に基づく指定認定機関として、高度化計画及び高度化基盤計画(HACCPの導入に段階的に取り組もうとする場合の計画)の認定、計画作成に関する相談等の業務を実施しました。

HACCPの制度化に向けた準備が進められる中、制度のPR等に努め、乳業者のHACCP導入に向けた取り組みを支援しました。

- ・計画認定:なし (28年度 0件、27年度 1件、26年度 1件)
- ・高度化基盤計画の変更認定:1件
- ・HACCP支援法による支援制度等に関する相談対応: 6件 ※ (28年度3件、27年度2件)
(※ 2件は認定済み施設の整備完了確認)

(3) 指定乳製品等検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、「畜産物の価格安定等に関する法律施行規則」等で定める規格に基づいて、輸入乳製品の品質検査を実施しました。

乳製品の輸入に際し、依頼者の要請に的確に応えられるよう、検査やサンプリングの支援要員・補助員を増員(フルタイム2名、随時1名)して対応しました。

種 類	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
バター	1,581 検体	1,226 検体	1,572 検体	1,628 検体
脱脂粉乳	2,724	1,006	2,135	2,304
ホエイ及び調製ホエイ	771	325	348	262
デリースプレッド	32	44	40	78
バターオイル	37	27	27	21
加糖練乳	-	58	-	-
計	5,145	2,686	4,122	4,293

2 依頼による試験・調査

(1) 依頼による食品等の理化学的、微生物学的試験

食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025認定試験所として、依頼者のご要望に的確にお応えできるよう配慮して、試験検査を幅広く受託して実施しました。

飼料用粉乳の受託数が半減したこと等から、全体の依頼検体数は前年度比10%減となりました。

・受託品目： 飲用乳、アイスクリーム類、調製粉乳、発酵乳、練乳、チーズ、脱脂粉乳、飼料用粉乳、その他食品等

・試験項目： 理化学

乳脂肪分、無脂乳固形分、たんぱく質、灰分、放射能、
金属(Na、Ca)、溶解度、スコーチドパーティクル等
微生物

細菌数、大腸菌群、耐熱性菌数、リステリア、高温菌数等

・検体数： 3,649 検体 (28年度:4,089、27年度:3,525、26年度:3,286)
うち、放射能検査： 585 検体 (28年度:651、27年度:678、26年度:639)

(2) 依頼による調査

①全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼による調査

全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼を受け、全国飲用牛乳公正取引協議会製品等検査規程に基づく市販品成分検査と認定検査機関実務調査を実施しました。検査規程の改正に伴い、市販品の成分検査(乳飲料を除く)については試験結果の判定まで、また、定期成分検査については合否判定まで実施しました(定期成分検査の受託数:2の(1)の内数 136検体)。

・市販品成分検査

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
牛乳	226 件	435 件	447 件	372 件
加工乳	19	45	52	71
乳飲料	142	307	279	310
成分調整牛乳他	40	77	81	92
計	427	864	859	845

・認定検査機関の実務調査:30施設 (28年度:32、27年度:32、26年度:33)

②食品の安全確保推進研究事業：厚生労働省（平成27～29年度）

乳等省令における試験法に関連する情報収集と、修正が必要と考えられる試験法について検討し最適な試験法の策定の可能性も含めて将来的な展望を示すことを目的とする研究事業を、国立医薬品食品衛生研究所の分担研究者として実施しました。

国際的な動向を踏まえた乳及び乳製品の試験法の研究班会議での検討を経て、乳等省令法、ISO法、AOAC法について、アイスクリーム類の乳脂肪分、濃縮乳・無糖練乳の乳脂肪分、乳固形分、加糖練乳の乳脂肪分、乳固形分のコラボ試験を実施して、手順、精度等を比較し、報告書を取りまとめて主任研究者に提出しました。

なお、コラボ試験は(一社)日本乳業協会を通じて依頼した4試験室のご協力により、3～5試験室で実施しました。

③ファーム乳製品安全性・品質確保支援事業：

公益財団法人全国競馬・畜産振興会助成（平成27～29年度）

6次産業化の取組が全国的に進められ、酪農家が自ら搾った生乳から乳製品を製造し直販する取組も増加しつつあります。これらの取組が成功し、多彩で魅力的な乳製品の提供が続くよう、その礎となる安全確保のために必要な食中毒菌等の微生物、抗生物質等の化学物質等の検査、工房の衛生管理向上のための検査、表示の正確性担保のための検査、アドバイス等を行い、安全性に加え品質の確保等による信頼の構築に資する事業を実施しました。

学識経験者等からなる事業推進委員会における具体的な進め方等の検討の後、チーズ、ヨーグルトの製造に取り組む酪農家を対象に事業への参加案内を行いました。45施設の製品・原料乳204件について検査を実施し、製造施設8カ所の環境調査を実施し、結果を各施設に送付しました。検査結果等を事例集として取りまとめ、協会HPに掲載しました。

また、製造施設10カ所からの参加者により、食品の安全と安心、HACCP手法を取り入れた衛生管理、乳製品製造施設の衛生環境および官能評価についての講義、実習の研修会を平成29年12月21日に開催しました。

④規格適合検査技能向上促進対策事業

乳業工場における飲用乳の成分検査の実態調査、結果のばらつきの評価等を実施し、その原因の検討のための実地調査を行って改善案等を取りまとめた事業（平成26～27年度農林水産省補助事業）の成果を、飲用乳等の検査精度の向上等のために活用する可能性について引き続き検討しました。

3 研修会の開催・講師派遣

[協会主催の研修会]

生乳や乳製品の検査を行う技術者等を対象とした実技中心の2種類の研修会を計6回開催し、参加者は合計35名(28年度 30名、27年度 30名、26年度 19名)でした。研修生のご要望等によりの確にお応えできるよう講義内容、資料、実習用器材等について工夫、改善を加えながら実施しました。

新任技術者向けに平成26年度に新設した5月の生乳検査技術研修会の参加者は、8名(28年度 5名、27年度 5名、26年度 5名)でした。

開催実績：

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者
生乳検査技術研修会 講義等:精度管理に関する講義、放射能検査(見学) 実技: 乳脂肪分、たんぱく質、乳固形分、比重、体細胞数、抗生物質	5月 15 ～ 17日	8人
	7月 18 ～ 20日	8人
	10月 4 ～ 6日	8人
	1月 22 ～ 24日	8人
	計 4回 (28年度 4回) (27年度 4回)	計 32人 (28年度 27人) (27年度 28人)
乳糖検査技術研修会 実技: レイン・エイノン法	8月 24 ～ 25日	2人
	11月 6 ～ 7日	1人
	計 2回 (28年度 2回) (27年度 1回)	計 3人 (28年度 3人) (27年度 2人)

[乳業関係団体の依頼による研修会]

全国飲用牛乳公正取引協議会、一般社団法人日本アイスクリーム協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会の依頼を受け、検査技術研修会10回(28年度 10回)、アイスクリーム検査技術研修会2回(28年度 2回)、ビフィズス菌検査研修会2回(28年度 2回)を実施し、参加者は合計107名(28年度 122名)でした。

開催実績：

研修会の主催者、内容等	期間・回数	参加者
全国飲用牛乳公正取引協議会 検査技術研修会 ・Aコース 講義等:精度管理に関する講義 実技: 乳脂肪分、たんぱく質、乳固形分、比重、滴定酸度 ・Cコース 実技: 細菌数、大腸菌群、低温細菌数、体細胞数、抗生物質	5月 22 ～ 26日 合併コース	6人
	6月 12 ～ 16日 合併コース	7人
	6月 28 ～ 30日 Aコース	6人
		Cコース
	7月 26 ～ 28日 Cコース	5人

・合併コース 実技：A、Cコースの合併	9月20～22日	
	Aコース	4人
	Cコース	5人
	9月25～29日	8人
	合併コース	
	10月23～27日	6人
	合併コース	
	11月13～17日	6人
合併コース	11月20～22日	
	Aコース	6人
Cコース	6人	
11月27～12月1日	6人	
合併コース		
	計 10 回	計 77 人
	(28年度 10回)	(28年度 81人)
	(27年度 10回)	(27年度 67人)
一般社団法人日本アイスクリーム協会 アイスクリーム検査技術研修会 ・Aコース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 全固形分、単位重量 当たりの容量比 ・Cコース 実技：細菌数、大腸菌群、 黄色ブドウ球菌、 抗生物質	12月11～13日	
	Aコース	2人
	Cコース	4人
	2月13～15日	
	Aコース	2人
Cコース	6人	
	計 2 回	計 14 人
	(28年度 2回)	(28年度 25人)
	(27年度 2回)	(27年度 17人)
一般社団法人全国発酵乳 乳酸菌飲料協会 ビフィズス菌検査研修会 講義等：乳酸菌・発酵乳に関する講義 実技：乳酸菌数、大腸菌群、 ビフィズス菌数	1月29～30日	8人
	2月5～6日	8人
	計 2 回	計 16 人
	(28年度 2回)	(28年度 16人)
	(27年度 2回)	(27年度 16人)

【講師派遣】

一般社団法人日本乳業協会、一般財団法人蔵王酪農センター等の依頼を受け、のべ25名(28年度 26名、27年度 23名)の講師等を派遣しました。

全国農協乳業協会の依頼を受け、「乳業製造技術通信教育」の「牛乳・乳製品検査法」の講師を担当し、テキストの改訂及び設問レポートの作成、添削、採点を行いました。また、平成31年度より使用するテキストの改訂に向けた検討も行いました。

派遣実績：

研修会の主催者、内容等	期間	場所
一般社団法人日本乳業協会 牛乳HACCP専門家講習会	5月 24 ～ 26 日	千代田区
	6月 7 ～ 9 日	大阪市
一般社団法人日本乳業協会 官能評価員育成研修会	7月 27 ～ 28 日	千代田区
	9月 21 ～ 22 日	
	2月 1 ～ 2 日	
一般社団法人日本乳業協会 牛乳微生物講習会	3月 2 日	大阪市
	3月 6 日	千代田区
一般財団法人蔵王酪農センター 国産ナチュラルチーズ製造技術 (専門・基礎)研修会	7月 8 日	宮城県
	9月 26 日	
	11月 28 日	
	2月 27 日	
6次産業化に取り組む牧場 社員衛生研修会	12月 27 日	伊勢原市

4 研究・技術・調査情報の提供等

(1) 乳業技術誌の刊行

Vol.66 2016 を刊行(7月)し、関係行政機関、酪農乳業団体・企業、関係大学他約200施設に配布しました。

平成29年6月6日に編集委員会(編集委員長:松田 幹)を開催し、Vol.67 2017は「総説・解説」、「乳技協だより」、「読者からの話題提供」、「編集後記」の4つから構成する等、編集方針が決定されました。

乳業技術「Vol.67 2017」

編集委員

松田 幹	名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授
齋藤 忠夫	東北大学 名誉教授
武田 安弘	森永乳業株式会社 栄養科学研究所 所長
堂迫 俊一	前 雪印メグミルク株式会社 ミルクサイエンス研究所
藤川 浩	東京農工大学 大学院 教授
星野 昌彦	協同乳業株式会社 研究所 技術開発グループ長
豊田 活	株式会社明治 技術開発研究所 所長
栗本 まさ子	公益財団法人日本乳業技術協会 代表理事

総説・解説

- ① β-D-ガラクトシダーゼの開発と利用
(齋藤忠夫、長畑直樹、木村一雅 東北大学、新潟青陵大)
- ② ナチュラルチーズの製造法
(佐々木正弘 雪印メグミルク株式会社)

- ③ 地理的表示(GI)保護制度と登録効果に関する研究: 産品と原産地の結び付きを手がかりに (木村純子 法政大学経営学部)
- ④ 運動+乳製品摂取の熱中症・生活習慣病予防効果 (能勢博、森川真悠子、片岡由布子、内田晃司、増木静江 信州大学)
- ⑤ 粉乳製造技術の基礎と最近の動向 (佐竹由式、豊田活 株式会社明治)

読者からの話題提供

酸性下におけるカゼインの不思議な挙動
(青木孝良 鹿児島大学)

乳技協だより

- ① 全国集乳路線別生乳成分調査から見る生乳成分の推移について(丸田陽洋)
- ② 検査技術研修会での質問から(山口千里)

編集後記 松田編集委員長

(2) 全国集乳路線別生乳成分調査

全国の生乳成分(乳脂肪分、無脂乳固形分)の調査を昭和50年以降継続して実施しており、乳業各社のご協力を得て「全国集乳路線別生乳成分調査第43報」を取りまとめ、協会HPに公表しました。

平成29年(1~12月)の調査延べ路線数は、工場到着ローリー乳で7,859(平成28年7,843、平成27年7,697)、全生乳生産量(1日あたり)に対する調査対象乳量のカバー率は40.7%(平成28年40.6%、平成27年40.2%)でした。これまで蓄積されている情報を活用し、乳業技術「Vol.67 2017」の「乳技協だより」に掲載する原稿を準備しました。

協力会社名(50音順)

協 同 乳 業 株 式 会 社	岐 阜 グ リ コ 乳 業 株 式 会 社
信 州 ミ ル ク ラ ン ド 株 式 会 社	新 潟 県 農 協 乳 業 株 式 会 社
北 陸 酪 農 業 協 同 組 合 連 合 会	株 式 会 社 明 治
森 永 乳 業 株 式 会 社	雪 印 メ グ ミ ル ク 株 式 会 社
よ つ 葉 乳 業 株 式 会 社	

F, SNFの地域別平均値(%)

地 域	F	SNF	地 域	F	SNF
北 海 道	3.929	8.811	東 海	3.853	8.790
東 北	3.914	8.748	近 畿	3.886	8.794
関 東	3.855	8.779	中 国	3.879	8.787
北 陸	3.932	8.784	四 国	3.891	8.778
東 山	3.825	8.680	九 州	3.955	8.816
		全国平均			8.805
		(平成28年			8.797)
		平成27年			8.791)

(3) 技術関連情報の提供

乳・乳製品の試験検査の手技・手法、品質管理や表示のための試験法、測定値の活用方法等に関する、乳業者・公的機関の試験検査等担当者、6次産業化に取り組む酪農家、流通業者等からの幅広い問い合わせに対応しました。

協会HPに、6次産業化に取り組む酪農家向けの参考資料(事例報告)、生乳検査精度管理認証制度関連の資料を掲載したほか、トップページ、レイアウトを改善しました。

(4) 関係機関、関係団体との連携

関係機関、関係団体の会議への出席等を通じ、情報の収集や意見交換を行いました。

団 体 等	会合名、内容等
全国飲用牛乳公正取引協議会	常任委員会、専門部会
(一社)日本乳業協会	定時総会
(一社)日本乳容器・機器協会	定時総会、理事会
(一社)食品衛生登録検査機関協会	通常総会
(一社)Jミルク	生乳検査精度管理認証特別委員会、 生乳検査精度管理委員会
チーズ公正取引協議会	常任委員会、技術小委員会
(公社)畜産技術協会	総会、理事会
(公社)中央畜産会	定時総会
(一社)酪農ヘルパー全国協会	定時総会
東京飲用牛乳協会	品質改善委員会
関東生乳販売農業協同組合連合会	生乳品質改善共励会(代表理事賞)
全国畜産縦断いきいきネットワーク	大会(協賛)
全国酪農青年女性会議	全国酪農青年女性酪農発表 大会(審査)
(一財)蔵王酪農センター	国産ナチュラルチーズシンポジウム(後援)

(5) 研究成果の発表

「全国集乳路線別生乳成分調査(第43報)」を協会HPに掲載しました。

「国際的な動向を踏まえた乳及び乳製品の試験法の研究(平成29年度 総括・分担研究報告書)」を作成・配布しました。

「乳業技術Vol.67 2017」の「乳技協だより」に掲載する原稿「全国集乳路線別生乳成分調査から見る生乳成分の推移について」を準備しました。

5 生乳検査精度管理

生乳検査精度を高い水準で維持することの重要性に鑑み、引き続き、測定機器校正のための試料乳(乳成分用、体細胞数用)の配布、生乳検査外部精度管理調査(技能試験)を行うとともに、生乳の品質管理、流通の合理化、さらなる品質改善等に資することを目的に酪農乳業が一体となって進める生乳検査精度管理認証制度(実施主体:一般社団法人Jミルク)の書類調査及び現地調査を実施しました。

(1) 測定機器校正のための試料乳の配布

乳成分用試料乳配布数 2,753セット

(28年度 2,708セット、27年度 2,769セット、26年度 2,817セット)

体細胞数用試料乳配布数 370セット

(28年度 365セット、27年度 375セット、26年度 353セット)

(2) 生乳検査外部精度管理調査

参加施設名を協会HPに掲載して公表するとともに、生乳検査室等に掲示していただくための「参加証」を引き続き発行しました。

参加施設数 111 (28年度107、27年度105、26年度103)

(3) 生乳検査精度管理認証制度(書類調査、現地調査)

一般社団法人Jミルクの依頼を受け、認証申請施設についての調査を実施しました。

調査実施施設数 新規1施設、更新10(2回目更新10)施設

(28年度更新20(うち2回目更新16)施設、27年度更新15(うち2回目更新10)施設、
26年度更新9(うち2回目更新8)施設)

認証施設数 45 (28年度 45、27年度 46、26年度 46)

6 国際酪農連盟日本国内委員会

国際酪農連盟(IDF)の一会員国として、国内の酪農乳業関係者と協議しつつ、以下の事業を実施しました。

①国内専門部会を23回開催し、乳製品(栄養強化乳飲料及びフォローアップフォーミュラ)に係るCODEX規格及びビフィズス菌測定法の改正に係るIDF/ISO活動等について協議し、情報共有を行いました。また、IDFからの40件の質問状について関係専門部会で回答を作成し、IDFに回答しました。さらに、コーデックスに係る事項に関して意見等を取りまとめ、農林水産省及び厚生労働省に提出しました。

②英国(ベルファスト)において10月に開催されたIDFワールドデーリーサミットに48名、IDF及びコーデックス関係の計27の国際会議(電話会議を含む)にのべ75名が出席しました。これら国際会議の出席者による平成29年度国際会議出席報告会を平成30年2月に会員、専門委員等92名の参加を得て実施し、情報共有を図りました。

③関連情報・資料をまとめた刊行物を6冊発刊し、会員、専門委員、政府関係者等に配布しました。JIDFホームページ上にコーデックス関連資料、IDF関連資料、IDF/ISO分析法関連資料及びこれらに関連するJIDF資料を提供したほか、JIDFホームページへの新規資料掲載時に、その概要を通知するメールの自動配信を開始しました。

また、幹事会は平成29年5月、8月、12月、平成30年1月の4回、総会は平成29年5月、8月、平成30年1月の3回開催しました。

[収益事業]

賃借室等賃貸

所有する土地建物の賃貸業務を民間事業者に委託して実施し、計画どおりの運用益が得られ、公益目的事業に充当しました。

〔 報 告 事 項 〕

1. 庶務事項

平成 29 年 4 月 3 日	平成28年度農業競争力強化対策民間団体事業 実施状況報告書提出(農林水産省)
平成 29 年 4 月 13 日	平成29年度農業競争力強化対策民間団体事業 実施計画の承認申請書提出(農林水産省)
平成 29 年 4 月 17 日	平成28年度HACCP手法支援法高度化計画認定状況 等報告書提出(厚生労働省・農林水産省)
平成 29 年 4 月 26 日	平成28年度日本中央競馬会畜産振興事業実績 報告書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
平成 29 年 4 月 28 日	公認会計士 指導・監査
～ 5 月 2 日	
平成 29 年 5 月 11 日	監事監査
平成 29 年 5 月 17 日	消費税申告及び納付(麴町税務署)
平成 29 年 5 月 30 日	第14回理事会(別記)
平成 29 年 6 月 20 日	第8回評議員会、第15回理事会(別記)
平成 29 年 6 月 21 日	平成28年度HACCP手法支援法事業報告書及び 収支決算書提出(厚生労働省・農林水産省)
平成 29 年 6 月 27 日	法人税等確定申告及び納付(麴町税務署他)
平成 29 年 6 月 30 日	平成28年度事業報告書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
平成 29 年 7 月 5 日	社会保険算定基礎届完了
平成 29 年 7 月 10 日	労働保険料確定申告書提出(東京労働基準局)
平成 29 年 8 月 8 日	ISO認定試験所のサーベイランス (公益財団法人日本適合性認定協会)
平成 29 年 8 月 21 日	平成28年度農業競争力強化対策民間団体事業 成果報告書提出(農林水産省)
平成 29 年 11 月 27 日	食品衛生法登録検査機関の定期立入検査 (厚生労働省 関東信越厚生局)
平成 30 年 1 月 9 日	乳業諸団体新年賀詞交歓会
平成 30 年 1 月 23 日	平成29年度農業競争力強化対策民間団体事業 補助金遂行状況報告書提出(農林水産省)
平成 30 年 1 月 30 日	償却資産申告書提出(千代田都税事務所)
平成 30 年 3 月 13 日	第16回理事会(別記)
平成 30 年 3 月 14 日	平成30年度HACCP手法支援法に係る事業計画書 収支予算書提出(厚生労働省・農林水産省)
平成 30 年 3 月 27 日	平成30年度事業計画書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
平成 30 年 3 月 31 日	事業年度終了

2. 会 議

第14回 理事会(平成29年5月30日)

- 1) 平成28年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について
- 3) 事業の執行状況報告

第8回 評議員会(平成29年6月20日)

- 1) 平成28年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 理事、監事及び評議員の選任の件
- 3) 平成29年度事業計画及び収支予算書等の報告

第15回 理事会(平成29年6月20日)

- 1) 役付き理事の互選について

第16回 理事会(平成30年3月13日)

- 1) 平成30年度事業計画及び収支予算書等の承認について
- 2) 諸規程を整備する件
- 3) JIDF事務局のJミルクへの移管について
- 4) 事業の執行状況報告

3. 役 員

平成29年6月20日

下記の役員に関し、第8回評議員会で選任。

再任 理事 阿久澤 良造、安部 俊朗、海野 研一、栗本 まさ子、
小久保 彌太郎、松田 幹、守部 公博、横田 滋

新任 理事 城端 克行、増田 哲也

再任 監事 廉林 秀規、保井 久子

平成30年3月31日現在

代表理事 栗本 まさ子

理事 青山 和夫、阿久澤 良造、安部 俊朗、海野 研一、
小久保 彌太郎、城端 克行、増田 哲也、松田 幹、
守部 公博、横田 滋

監事 廉林 秀規、保井 久子

4. 評 議 員

平成29年6月20日

下記の評議員に関し、第8回評議員会で選任。

再任 評議員 大塚 誠司、川村 和夫、齋藤 忠夫、迫田 潔、
島崎 敬一、前田 浩史、南 俊作、宮原 道夫

新任 評議員 五十君 静信、浦島 匡、酒井 健夫、清水 誠、
鈴木 千セ、畑江 敬子

平成30年3月31日現在

五十君 静信、浦島 匡、大塚 誠司、尾崎 玲、川村 和夫、
齋藤 忠夫、酒井 健夫、迫田 潔、島崎 敬一、清水 誠、
鈴木 千セ、田村 賢、西尾 啓治、畑江 敬子、前田 浩史、
三浦 晃一、南 俊作、宮原 道夫

5. 国際酪農連盟日本国内委員会

平成30年3月31日現在

会 長	海野 研一
副 会 長	大川 禎一郎、渡辺 裕一郎
常任幹事	栗本 まさ子
幹 事	石川 文保、石原 哲雄、梅崎 信彦、小久保 彌太郎、 小西 寛昭、小山 剛、迫田 潔、島崎 敬一、 菅沼 修、清家 英貴、中村 裕忠、ヘンリック・ハウゴー、 前田 浩史、馬瀬口 弘志、三浦 晃一、宮原 道夫、 村松 道男、横田 滋
監 事	菅原 順子、丸川 通裕
専門部会代表	小出 薫
同 補佐役	有田 宏行

6. 職員等の異動

期首人員	22 名
採 用 者	3 名
退 職 者	5 名
期末人員	20 名

平成29年度事業報告 附属明細書

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年5月

公益財団法人日本乳業技術協会